

令和2・3年度大島地区研究協力校「小・中の連携」 奄美市立崎原小中学校公開研究会

主題設定の理由

【社会の要請】

自己肯定感を高め、新たな社会の創り手を育成する。

【子供の実態】

- 小・中一緒に行う行事や委員会等の活動が多く、地域との繋がりも強い。さらに、異年齢の友達と遊んだり話をしたりする機会も多く、愛校心も比較的高い。
- 自分の考えを発表することを苦手とする児童生徒もあり、学年が上がるにつれ自己肯定感が低下する傾向にある。

研究主題の理由

小・中が連携した「共に学び共に心を育む」児童生徒の育成
～個に応じた指導の工夫と系統的な体制づくり～

目指す児童生徒像

- 1 主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現し、他者の考えを取り入れて学ぶ児童生徒
- 2 集団の中でコミュニケーションをとり、思いやりをもって、生き生きと活動する児童生徒

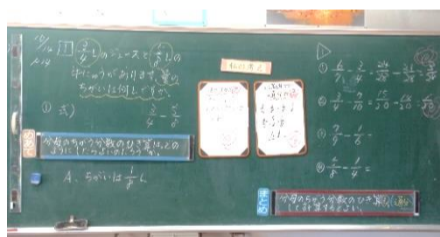
研究の視点

視点1【個に応じた指導の工夫】

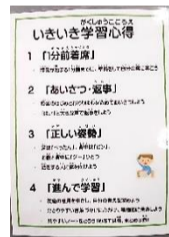
- (1) 「つながりシート」（全員の個人カルテ）や「崎原っ個プラン」（個別の教育支援計画）による児童生徒の実態把握
 - ・ 「つながりシート」とは、全児童生徒個々の学力調査結果や出席状況、その他の情報が分かるシート
 - ・ 「崎原っ個プラン」とは、個々の特性や実態、指導の経緯等を職員間で共有するために入学時からの記録を記載している個人記録簿
- (2) 個々の実態に応じた指導・支援の工夫
授業の学習過程に合わせて、「自分の考えをもち、説明する」児童生徒の姿と教師の支援を発達段階に応じて作成
- (3) 組織的な個別指導の工夫
毎月第3水曜日の放課後、「サア！キバルTime」の時間を設定し、一人一人に全職員で個別指導を実施
- (4) 学業指導について
共通の学業のしつけやルールの設定と発達段階に応じて系統性を整理した学習の決まりの作成
板書におけるめあてやまとめの表記方法の統一や、授業の終末の「振り返り」の時間を設定し、ポストテストや自己評価を共通実施



【サア！キバルTime】



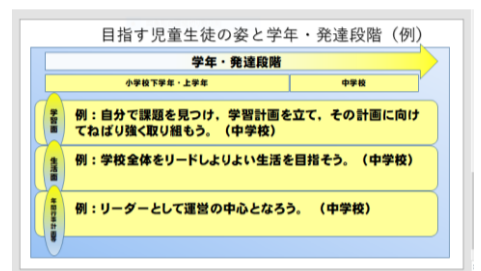
【板書例】



【いきいき学習心得】

視点2【小・中の連携の体制づくり】

- (1) 系統的な体制づくりについて
学習面、生活面、行事等における異年齢集団活動における目指す児童生徒の姿を、9年間の発達段階（小学1年生～3年生、小学4年生～6年生、中学1年生～3年生）の3つに分けて指導
- (2) 授業形態の工夫について
個々の実態を共有し、学習の効果を高めたり学習の定着を図ったりする目的で、小・中の合同授業や小学校教師と中学校教師によるT・Tの授業等を実施
- (3) 小・中連携体制での行事について
様々な行事等で、児童生徒が生き生きと活躍するための、小・中の教師の協力による、発達段階に応じた指導
- (4) 異年齢集団活動の充実について
児童生徒がコミュニケーションをとり、生き生きと活動するという目的の達成のために、様々な異年齢集団活動を意図的に実施



【発達段階ごとの目指す児童生徒（例）】



【学習発表会】



【ゲストティーチャーによる生活科】



【T・Tによる外国語活動】



【炭作りの説明】



【緑化活動】

公開研究会の様子（53人参加）

研究授業



小5・6年，中学生

小3・4年

授業研究会



研究協議

〔公開研究会に参加された先生方の感想〕

- 小学校の外国語活動を参観させていただきました。All Englishの大事さを改めて感じました。
- 英語の授業を参観しましたが、今後の参考になることがたくさんありました。
- 小5・6年生と中学生との合同授業は、とても難しいと感じました。しかし子供たちにとって、有意義な時間であることは間違いありません。このような取組で、崎原、奄美をもっともっと好きになってほしいです。
- 児童生徒の発表の仕方はもちろん、調べてまとめた資料もすばしかったです。とくに中学生が、結果と考察を分けていたのがよかったです。
- 分科会の指導主事の指導助言は大変分かりやすく的確な指摘・指導でした。自校の研究に生かせる研究内容でした。
- 私の学校でも小中連携を見直し、児童生徒のために頑張っていきます。とてもすばらしい勉強をさせていただきました。